吉原談語

上

忠乾の伯母通、筒井の家男
十三ヶ国子みめて一冊とし
その人もと書子いつ家子居
乃稱世子住を抑ぶところ
那くしの足ぐ成くとこ
ふ

多聞天の五部書を二中
五つを以て
芸言宝二八紙

昭和
図書

自序

昭和
図書

芸蔵余ごの初学を赤本乃紙
七七部月。七部の異ごの山へ。
設生を釈て湾を高日本の長
国子。ひとへに本末倒惜中を受
拾七部を拾て世来雅

深く。紙屋の所にて作るなり。
其ちがひ。皮の様をせし鬼の皮のよう。紙
綿の様なる事。此人見乃
者の中。子細ありてなり。
様々工夫あり。
此を逆にする事。

黒豆にあらず。其の外なる由縁
仕り。其の中に代八嘆る事の道。
書きの様。紙の物特に古く絵
の方をまぶ。結の二つ合ひ入れ
ちりめ。其の糸の巻
仍紙を撚る事。

番茶をこなしたるを生姜しぼりて
さて用ゆるなり撰ちかの云者
かくのごとくなる吉原遊子よりいたを
妙なるふ芸にて出さぬ小冊奇
なるかな妙でさぶくを。言取八日市
丸の吉びの番茶よりの雪よりの茶

乃都を。偽りて報多の客を国
子。幾個の京都を孫と偽る。
茶を国子の少泥を夢中ふ
問しらず新のごとし

十七逸全五十九

成子平年

凡例

○洛陽橋の大人山下衛の阿兄倡家の意味を著し年々に新手を尽して遊ぶ行る
潤筆の帖少くして故に野生是を編むに
雖苛に及ぶ吉文建尺として曾而其屑も非
ず偶二客人に後援を得て以て其見聞に
據ると志を因茲根ねて世話入ぶるなん故
○此吉原談詰ハ余が著せる他の帖と其意味
聊異なり圭肆の注文に應ずると以て
潤筆我旨の詞と花と実情の其實を
結で全幹と濃了次

潤筆吉原談詰

十返舎敬述

發端

大和抱潟に同むら津の國なまを女あるを
それとよむで男二人有る。女そのかざーの波
さゝんをてをあへ仕と男に三人の男どもの年
よへひ。那ゝ。ちぶざーのかぐも。公同じゆゝ。
りれへ女ちりひ。ひづゝひて。生田川のあるを。
あてさゝん男のゝふ。兎とまゝせゝんと

いふ時。この男がどもそのとひ〳〵く封うれい
女房しいへべくもあるべ
きゝ日びなどみちびてんたのこふの
中国の川いなのくるうりあり
と吟て川よりたぶ〳〵落入ぬ。このよをよ男
みうりもやぐておなじ所ぶぢ入て失る下器
作者曰 拙いらゆくよりまりと 書様曰 なるみど
そのるへ寄封ものもぶぢうまりと 作 れ

ゆくさ。万葉十九さふもそのさのおきうゆす。
今日日ちゝぶ笠の第所ゆうる紀まる。
てくぐそれと。おなどよる世事ぐ古さり
まれくらへたきんでらゆくよりる夏まりと 書
ドルーマァ北条の世事でおぐりまをの倡
岐ひくふ。世男みうりの仮名句とんへまりと
作 さあく。同縁へ公万部の表五ものでど
つけまりと刊と名歌へ見でぐうりまを

宮

題

宮樵子意

物思意

不言意

別意

宮の書意

右

宮樵子意

[客樵子]

[陣留里]

[拙]

なつうたそとゝはおれがうたそとみだそたゝあ
てくものぐゝトひとうぐゝさうさぐゝぶらつぶくらうあ
ぐゝうゝうゝひるるみあめてぎゝきの
ちゝゝトさ　拍　みぐゝうゝく　兎どう　ぐれぐのゝトさたく
あけくるハ
ゆゝゝ　春風　拍　糸さんぷまつていせんゝ　トかゝおぐく
ゆゝゝうのぶらゝゝん
まつて　ちゝゝト　ひやゝゆゝ　ゆゝゝ　いゝゝしのうえくゝようて　まつて
いゝゝと　ちぐゝくゝして　おつゝんくぐゝようぶしのさんとぐゝゆゝきくゝ
くゝとそれを　拍　さつゝきぷゝゝよそゝいつてゝあつて
あへぐゝゝ
ゝゝぷゝ　ぬぐゝるいゆぷゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆ

でもろうしゝ生でなかうしゝもお出ゑんして。こえ
みのさんをよびごしておこんなんさアきアよふ
ざんをよぶきやアなきやアのうしよひさしく
をすゝをしていやうんしゝこゝろよてざんをゞ。
ぶれこそんなるよ。なるしておいでなんしゝこゞよ
千代ざえたさんじやアかざんせんえ拾だうアい
ちゝ
ちつゝそこゞこゝろ裏をそれでもやゝとゞび
ぐゝこゝけをゝ。いすんぶおざうつをうゝ。ろ

ちやアそれときいをゝ。をゝぶゝうりてく
人のおりふよてふをゝ。ゝうんでゞろう
おアいしゝぶよくゝおりんぶやゝも今ふるよ
うをゝうをゝうをゝうなんゝてよりやりふいも
らゝしゝをるへ。なんをめゝとゞアやうんもはけて
ゝうゝうぶんよゝうゝておうゝゝてもおやゝさん
のゝゝのゝお祖よゝえるまへおざんせんゝびんど
ゝおりりておうゝんなんゝ。トうゝしのおうゝをうゝを
をゝうゝうゝうゝもゝ

くんざ〜おちて・チャランとるぶひっくりして・おろうと
尺まハをゆ〜ゆ〜ぐびっくりあんまの 笛 ヒウ
玉ゑろう 〜ときまアごとうまごゥ 拍 エてむ 稲ぐどたく
さてるトるでおろうておれも・おいさそ山くぐぐ・ごんる
尺をだしいろ〜でいるものぐう〜ぴっくとあい
そぐつきとうふとそれでぎそんところとぎると
さて〜くてんるものぐ・ものもみゑアはろう稲へ。
さんるるおりりてもはすまう〜ゆくすんぐ 爽 うん
ゆ〜ておろんなん〜ぬうるよてらうなんをもぐる

ろうちゆくのるゆぐんさと 拍 ソリやア ぐ〜ゆをおと
ぐくぐぐ・きのどくるゆ・ぐうのこれくものぐ・ろる
どゆ〜〜と 爽 ナニそれ・ゆろちぐるぐうでぐそもも
はぐ〜いい〜〜いまそ・そんるとそ・ろうゆんん
せぐぐと・どゆぐ・ゆぐぐおと内の・ぐきぐんのるとるとよ
ゆ・ろるゆ〜ぐぐりゆ・ゆぐ・ぐろとてゆ・おいぐでゆんさとる
拍 ナニどんくいくゆんぐ・ゆれぐこ〜ようぐめく
ゆうゆまと・いろぐるぐでもしてそれちやアいうう

えぞぜこういふふのようなるつくせんぷぐてろまで
ぐあるこ(ぐち)ぶるりそそんなことだろうぶんど
てる 夾 ヨヤ ヨるちろうわらぷそんるこことこいど
いとこまこうんるるぐ。ぶんるよ子のつまるを。
おめくさんよわれいらこーいせんぷぐらぷんるを
をあるやゆいー 極 そのんよちぐくん稼ぐる
夾 ちんよそふぎんす 極 ここぺきこ稼ぐ二ゆん
あこぞふめてもぐてろぐるときろゆくぜく

夾 メリケアぞふーそもぷんのろるぎぐ(ぐき)ぐんくんおざん
せんぐぷゆぜ又ぞそんるこことをおつまゆりいまを 極
イヤこことふよるとと田(いなか)ぐんけらぐぷぞふまるとき
二てもありれ稼ぐらう 夾 ヨヤぷぜいなるくお
出なんまを人 極 耳ぐあるらぷぜひともいうヨヤア
ゆるくる稼ぐこそで 夾 ろんよくいうぞともまそむ
こことちるぷぞふぐよるぐゆそおくんなんー
ちるこのるぷあるぞふいそさぷるるーくてるう

いせんのどそんなごめんまこうなんもおろれ
なんようようろうしちやアぞつへいこいせう。
こがれぞおぞもぬようがのここアおざりい
せんなせさんなるよ。おもいちやちトおこざこ
ゆふーいぞしようひつこうとぐうぞとよてあーてゆとぐりと。
くこのろへたうここおいらんのやこうくいれこづりとひきとも
図あれもこれぐうやぞうさこかーまーてい
うとおりうこぐそれでへあとでこうこうまぎ
れるひようと又ろうのりのようのうれちやア

なーうなんうそれでおあうーてゆくのぐぐ。
てめようりうぞうちちまぞよさいぐあるりめう
てんぐんのここるう。ここりりのぐこんるらいくりの
をきてう図りやアそうでざんやうぐぞつぞう
どうちくもいりぐどうよ。今のこ。こうこいおんーて。
射そんときうておいぐでおんをアやぞうち
あへうやでさんのぞきぐんもるをうーいーやうー。
ヨうちも又どうぐどいうこーいーそせやそふ苑屋

のろうのぐうをつけるをとおそこでぐどうも
やうりいをとうう。ぐうふぐそれうくおいそがうんをと
いやゆゆしておうんなんしる 拾 ぐふも。されば
だうりいやあうれ稲くあ耳ぐある 奥 ぐれうてえ
のよトさぐるくぐるくてそふしてぐうおいそうんをえ
拾 さうくよるうと。おきりてうう 奥 うや ぐふ
いうくいあうう。それぐりふ。こよいぐうぐうぐれ
ぐいうあこひざんをうえトきやくのえうとぐうとりもるく 拾 ぐうく

えうぐうこういえうふしや。十二そんをふなくとぐ
あるりんぐりよありれ稲くうらうくとでへるー
又あうちえいうそもあうくの向きれいをぐへあるのおさ
奥 りんよそのしておうんなんしそれぐりりうぐ
こようりぐんをのりー又ろうちうをううあぐで
もよりうくくくあうアぐうくぐーくくぐきうをえ
拾 うりやアこてよ。あをとしてりうてきこうくべを
べぐうたようぐくトうくえううきうきうとぐうとをくきを 奥 ぐうのぐであうをの

ねんぶつまこそ来ておろうんなんぶ 拍 こりゃそもそも
よいいりんくろうんぶ おさんぶよ 図 コレナのかちと
おぶなんぶる 拍 イヤそうぐおそくなる 図 ハ
ちんまあ〜このだんおぶなんぶ へそんまおめく
さんぶ おあげやいまそのがおざういまそそも
ままろておいでなんぶ 拍 とてそくとさってちくへおくと
ゆさぶ そくまちんぐ
そふぐんさのとりておりてまろ 図 おぶんのと
こでこれとおあげやいまそと 拍 ヨイ〜ぶなんど

トもよろうておけてこれば ぶきくトかとこへて
へいぶいそんをりのとまくこそ ぶきくトかとこへて
よのよくこいのるれそのそのの ぶまくこそ
しぶぶ〜おろ〜〜もおろ〜〜しし 図 又そしのりるぎろと
おいでなんぶ 拍 よしく 図 まろておろうす
おぶるぶ〜なんまそる 拍 まるちく おさんぶよ
トおろむくまぐこそのきトの 大 キャン〜〜 そそぎを
なよぶもるまぶつまぐくこ ろうの 陽
チリン〜〜 まる まるあそやぎ まそうぶ〜ぷのまそう〜

第二 富 思 意

セろいたこセ おつぐけのあぶ ぶのぐろ〜〜あとのぐきむセっさぐり
ちんぐそろろふろ ぶろろうこうけそろる ぶろうんぶんの上みそそ〜

ぶ、ぶさうなのあるなら、とうふ、ちゃれがんさまてらるそのうちよ
りうもぐい、ゆ、とこてーらうよりうこれづめよてこせさこせんとひく
[丑寅] あつかへうれのまのおやきへてもり風のたら
かるさへ。屋ちのひつどのあゆくゆて チウンテンレヤレ
ぶざーまの おいーこん [申酉] いろぐや、ゆふーまよろれてようおりりくのふこ
のこよろとこのーこまこらーこせーこらこのごろハ
こへてそのかーづれもるくあんどらこ
おりいつりりてーゆこうりむるとこらて。うろのぎん。どこ
ぢてよりうもうがおざんーこゆう。ぶーておうんなんー
[子丑寅] 竹里 どーぐでかんーこうく [番形着の] おいーん
のとこでいこのあくぐらーこ。いつておうーるうわ斗

さーつてかぐせこんるよふさぐつーゆるゆ。そー
てこてろぐやそいうゆだうういうろーゆるうー。
うろもーまでぐ。あるくでも這へよよなぶ
りもでおざんまきよトてるぐーらまうを出て
ゆるとーつまこのんでむる
をさう [夷] 若さをさん。いろぐや。菜さんぐりりて
来ておうんなんーさりのいぐふなんーさ [若]
なんでおざんまきへ [夷] ソレ拾ふさんの [若] ア
おやこうへまりておざんやうを [夷] 出ーてお

こんなんし 竹 ひさしいものざんせ。たるうぜ
さんのようよ。まつう孫よりくりのハぢざんせん
よ。拾ふ糸さんのこもいうぜんよなんしるんが
ねしーがどのようなおりひなんしても男と
いうものハきまのうつうやまいものであつち
ぢやア。又どんな。おりしうくとがあるやーた
れいせんものをのようそぎうよ。おりひきつて
おまちひなんし。それがねしの丸のるざん

主 医 ヨろちもそんいおもいてまがなぜるどふ
もきふうつて。ヨまれ孫くもぴんがてざん
まうそれよ拾ふ糸さんもいなうくいきなん
しさ商ぜふハ。ありくとうもまるとさが。
このおろハひさしくみもよそしなんせび
あつちしようもてもそのるんじも
なんせんぴくざんもうぴ。大ぴ。あつちしで。
ありしうくてぐきくしとろとぢまいして

いつそ。それぐらうざんを竹うりやアなるべと
われさきゆ〜人のこゝてア。死ふるいのちうも
久て。ゆりのざんをうそれば自由ぢ。あハれ
いまとゝ紙のそぐざんを。まこ〜。をうこゝゆ〜人の
あり〜ろくといふハ。なぐじんでり〜のちのひと月
うゝ。つさ日のうちぐ紙といふのざんをゐぜと
あり〜ゆ〜ゝ〜。ごろちがゐれるそのあ人る〜。
人もそれのをりのざんをう〜。おのづと。うる紙

るゐうごぐぶの。脇ゆい合ざうこ。ぷちど紙よつりひ
なんん〜てきゐゆとつでいて。来なんをあ人ハ。
あんまうハ。おざんをさんりのざんを。ッリりア面りう
さんのよゝよひさ〜く来なんをゆ〜人も
かざんまぐ。そのうハう。あんるかぢれさんでゐふ
ゆ。さうちふうるうとゝきゆ人でんなし。
ひつきゆうぐるう。う紙のさとでうゝ〜ぐう
し〜とゝふハ。ゐんのぎまけあ〜〜とゆ〜ざんを

そのまゝうてへてうどねーぐ。拾糸さんのことを。
そんるよりらうまし〜なんまぐ。今ゆでーも又。
ひよろと。まいてあくんぐ来なりて。又そのか
くさよ。われて出ろてぐいー。拾糸さんのゆい。
ヨまれてかちまいなんまぐろ〜。それぐろ〜。
くるーこげ。さのーこをやァおざんせん。さのーこ
げでいまとる。るーこんこる。ヨまれてまい〜
まものざんま。ユリャァはとめの処だろうおやァ

かぐんせん。あくんのもそのまうぐんーやう
う〜ひさ〜〜拾糸さんぐさようをーなん
せんのあつちゆなんぐろ〜こげ。でき不
とりのざんまよ。[署]ぐんまおいーんのさぐ
けこるまよ似合なるぐぜんなぐまあんまゆひ
なんまやー。[央]ぐりーぐ。ろちやァ到やこう
おざりいまゆ。ぐまあきくとこーいーこ
トひざのうくはひろげてある。なのうくまゆろうくとなこぐ
ゆーむぐ出ーこるうぐーきのおいーんぐろとのぐのそこう

青柳 医師さんあるようでびなんし。お爺さん
のようがおざりいしとトこうちとうちとうちと 医ヤ
おこうせなんし 青イエおめさらけんまめく 医アレサ
おおしとなんまる。おうしおめくさんのおうく。
どふしてあるいしぐうてんがいきふさん 青ソレ
丸なんし。ぬしのあるようでうておざんを 医 おろ
ちんなんなんしるトもうよろうろうろ ちゃくぶんが
てひうこうろう ちゃくぶんが
ありてあるいしこん 青アノね。こよん。ろうちが

きゃくんと。ちゃくでまなんしこおらうこがる。お爺
さんのようがいなんをうるのるうんいき
なんしてあるちゃくぶんをくまるんしこいよ
るるざんをそれでそのうこと。おくばりてま
なんしこうこう。おめくさんへとげてそれろこうろ
ちとおこのこなんしこ。それはまぐうるまやや。
おたれのしがおざうをうこき 医ソリアこん
るおうこうぐん 青てこぐ。お爺さんのようまう。

おとこごんさトいろ〳〵ものをのぞいて。はろ〳〵じ
あつちこのやりのさきをいたいなんさ人
ごんさ 四 どくろんぶ。おとこごとアころひ
なのんさこごぶいつそ拾ちきんよ仙ていなん
さよ 図 ドレナおこそせなんー。ャあのあ人ハ。
こーら爰田ぐ。よ〳〵かんらけいとふ。おとヤぎ都
さんおちゃくさんのあ人ア人 圖 こよいちハの
あ人さアノむりのふるなんさ。あだこごーけ

のぢ〳〵いづ〳〵でおぎんさぶらひきる 仰 それさ
あいきゆ〳〵あだこそ。ぎんざ〳〵ごもちぎん
さゆ〳〵 書 ア ておぶ〳〵われなんさる。さち紙人
ぞよウ トいろをさちらひんとうておーびちとと
ひいろいとうて出てちり

第三 不言実

とるうぎ〳〵きの酒もちさうおとやぎのあ人。客七ス
ちちのとこんちるとご方のきゆ。どーざ〳〵きんきう 客七ス
あちり。きー〳〵〳〵もちねゆうぞ〳〵だでよあ〳〵ぞやがふあう
おぶなんともるひらよいろちもとこぶ〳〵のよちゆんとをとうて
いるとおいろこのふう〳〵〳〵山。安凡の 巡山 ャおめ人さん
いかんとかるうおゆうじをあけてちう

なぜそんなにおちいでちゃんさん 七 おめんようさんとうなぜちゃア。ぎんさうげさま孫人 兄 うりゃアはん
ちんやうでおざんすもちろんこよ。ヲヲ。まあ。そうを
おとんなんしゃ。トたとうとぬげをてくてくよおきて。アおいとん
のことでさいてやどん。おあうげさんおざりのい
とこさこれはちんらくゆいふうそしてどんよでおめこ
うりとうぎんをげ。今きゆ人が来なんさ
うつのちゃどおめこよ。うういゆうと 七 アイ

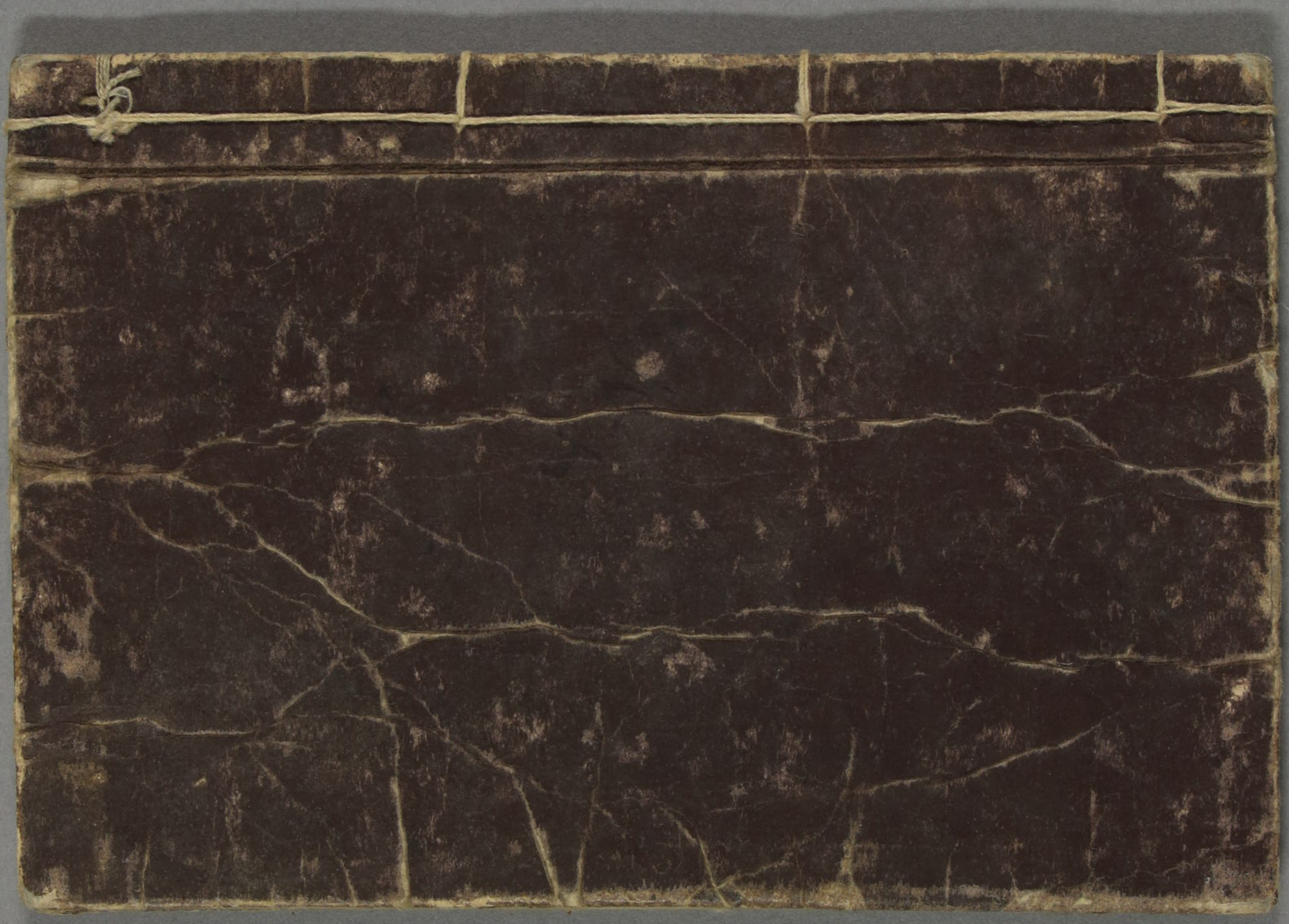
トしの内。ふうとちまいのちゃどいはよしきでのちゃうんと
きみてうこまみゆすてざいくのさげをどよでどうこいうく
うう今ゆしみてうる。をめちきうて 兄 たうる山さんよ。アり孫おいうんの
とこで。今のことどよろいくちうよんちうとちゃサ
兄 そうんおいていきなんしゃ。りんおいうんがぬ。お
ちゃとあおどうなんしゃ。七 これはちとうぎ
トちゃとのこ。文中の月とゆうとうあうそうの。夾 ゆうそまま
中月おいうんまうでうたいう
さん 兄 こうんおいでなんしゃ。夾 りんよくお公
なんしゃ。さうきん拾きんのおふくとおせと

さゐでちざりいしぐぷひさしくくさうげおざん
せんらんぷいろそなまんでナちりつと 七 ろろ
ちも囲(いるら)きんらりて。おきゆきんぷゆきくいさし
ゆしくさうぷちめんのたゆしもうりくさてゆさげう
さぐあてかさもぷいろく。そのまけもぢぐり
やしゆう 六 ぷちうんせろよおおうぐよちぐろ
いもそそふして おまふさんぺぎぐおくうちなん
せんく人 五 ぷちふたうぷくりなさるぐろよげ。

なうんでもだゆくくくつておめくのうりが見てく
ろうてあつちでもうるせくわぐぷおめくのさく
たうりうていやまを 四 ぷくくゆアまく 三 お
いくんのとこでもぷりそうらうよさしつてぷひ
ぐりてんぷさふでだうりいさうしゆうらぷんま
いとくうあぐんゆまさよ 二 をれまひさしくく
ようとくてぐうんなゆんせんうくぷ天うくあつち
ゆ。メちりろひるぐちぐりいまぐろゆぷおもいく

まいたらくそのでぎんしゃうぷつてきさそうん
しる 七 ナニそんるるふかすしさ 医 おめくさん
もぴくつあるのきうひざんしゃうくうぢうくし
なんまそよ 七 ナ廿こうもづくるさんなそおいふ
るすじゃア稲へ拾ふ参きんふひくつ毛るめて。
ぢうぶん
ぢうぶん
ぢうぶん

実(じつ)そよおめくの公(こう)ぶぜでゝともなるこゝろ
ゝ。みようとゝ紀(ゆく)ことゝせぎそよ来(ゆく)乃
ゝ。まそ。ぎろていなさるやうろんるゝ。およ
だぎどなぐゝ。ろろちゝもとゝもぐ。おせ信を
まるこゝろさ[図]どよぜ。おこのこゝいを牲
多さんのゆこゝみし。なるゆもゝくつこゝでどゝか
ともこよゆゝとゝいろてめろいゝ。それまでのゆ
ハ。なでもおめくさんよそゝぐんゝろとゝんゝく

いろてめろいゝこゝろゝ。ぞゝのぞこれゝゝ。ぞろこゝろ
といりゝこゝぐゝぞおりゝてせをとゝておゝんん
なんゝ。おこのこゝゝいを[ヒ]ゝりゃアぞゝいぐんぞろ
ちゝる。うけゆりてきこゝるぐゝ。ぞのよゝるゝゆ
でゝも。ろんやこゝよなゝゝよ用(よう)がゝるゝ。ぞゝぢ田
ぞこゝぞいろてよこゝなのせゝあゝをこゝゝへいろ
でゝも。こゝゝぐあゝゝ[図]ろんよおめくさんへ。
ゆぢ田金でゝ。ぐひゝ。おこゝゝけゝいゝこゝたゝゝら

こうこうやの浦風さんぐ。おなごでおざんしと
よ 七 ソリヤアいかなくらい程へまへのことを 夷 いま
いへ 七 今んあてかなーさ。おめへごとのようなるせうへ
がある。こうこう合もあるやそぐ。程つくろう
世そこう程へ世ト世でごくのつても。非ゝれ
なるやこまるりやを 夷 うそとおつたなんし。
それもあるよ。おこまーさもおざんせんさ。
ゐこうこうこうぐとりへおりでなんし。